

鉢物・緑化苗等における生分解性ポットの改良及び利用技術の開発

1 中核機関・研究総括者

岐阜県農業技術研究所 宇次原 清尚

2 研究期間

2005～2007 年度（3 年間）

3 研究目的

花きの生産・消費段階で大量の廃ポリポットが排出され、その処理が大きな問題となっている。このため、現在普及していない生分解性ポットを実用的なものに改良し、利用技術を開発する。

4 研究内容及び実施体制

- ① 各種生分解性ポットの改良及び実用性評価法の開発（岐阜県農業技術研究所、愛知県農業総合試験場、三重県科学技術振興センター、静岡大学、ダイトーエムイー（株）、（株）東海化成）
生分解性ポットに改良を加え、実用性の高い製品を開発し、分解性を客観的に評価できる手法を開発するとともに、分解を人為的にコントロールする技術を開発する。
- ② 鉢物・緑化苗等の生分解性ポットの利用技術の開発（岐阜県農業技術研究所、愛知県農業総合試験場、三重県科学技術振興センター）
鉢物・緑化苗等の品目と栽培法に適合した、生分解性ポットの特性を活かせる栽培システムを開発し、生分解性ポットの実用化を図る。
- ③ 生分解性ポット利用のマニュアル化とシステムの評価（岐阜県農業技術研究所、愛知県農業総合試験場、三重県科学技術振興センター、名古屋大学）
主要な花き類における生分解性ポットの利用技術を普及させるため、得られた研究成果を栽培体系として組み立て、代表的な花き類の現地実証とシステム評価及び経済性の評価を行う。

5 目標とする成果

これまであまり実用的でなかった生分解性ポットが鉢物・緑化苗等の生産段階から消費段階まで利用可能になり、さらには、生分解性ポットに機能性を持たせることにより品質向上や省力化が可能となる。

これにより、生分解性ポットを使った、環境に配慮した鉢物・緑化苗等の省力・安定生産、消費者への理解促進、並びに地域における持続的な循環型社会への貢献が期待される。

鉢物・緑化苗等における 生分解性ポットの改良及び利用技術の開発

